

株式会社 組楽工房
代表取締役 MURATA KENJI
村田 賢一さん

Company Data / 会社概要

- 【創 業】 平成18年1月
- 【所 在 地】 三芳町竹間沢
- 【従業員数】 3名（ほか役員4名）7名体制
- 【事業内容】 店舗・商業施設等の別注家具の製作、オーダーメイド家具の製作など



**新型コロナウイルスに打ち勝つV字回復に挑戦！
商工会の支援でものづくり補助金等を活用！**

事業内容と特徴

平成18年に東京都武蔵村山市で武蔵野美大の同期生（現役員4名）で創業、同19年に法人化、同20年に事業拡大に伴い三芳町に移転しました。注文依頼毎に異なる木製家具の美観や耐久性を専門技術とノウハウで実現する「課題解決型のものづくり」で応えられる納得の提案と施工が特徴です。

新型コロナウイルスの影響と対策

昨年3～5月は首都圏域の工事停止で過去にない受注停滞を経験しました。悩みつつも社内で話し合った結果、「先を予測して対応力をつける」「支援策を活用してV字回復に向かう」でした。財務顧問と商工会に相談し、新型コロナウイルス関連施策の活用で財務的体力の強化を図り、取引先から求められる現場での対策とコロナ後に向けて着手しました。

商工会を活用したきっかけ

2019年3月に持続化補助金のチラシが届き商工会に連絡すると、担当経営指導員の中村さんが巡回に来て提案をくれたことがきっかけです。すぐに施策の趣旨と具体的事例を交えた説明があり、当社が当時使いたいと考えていた設備導入等で補助対象経費のすり合わせや2～3年後の先々まで見越した提案をその場でくれました。問合せたこと以上の説明と提案で「活用できる」という気持ちが生まれました。そこから指導員からの3回程の支援で持続化補助金が活用できました。書類提出から最後の着金までしっかり支援がありました。

それまで労働保険事務の委託はありましたが、経営支援機関としての商工会の活用は正直これがはじめてでした。

計画作成、ものづくり補助金、先端設備導入計画の活用

商工会の経営計画策定支援等を受け、ものづくり補助金を活用し、念願だった「5軸制御マシンングセンター」を導入、基準の生産性は約1.65倍、複雑形状の加工精度も向上し大型受注の機会に恵まれました。そう思うと商工会から「先端設備導入計画の認定と税制活用はしていますか？」との連絡と提案……おかげ様で今は設備に係る固定資産税の減免措置制度も活用しています。



(上) 補助金で導入した機械設備



(上) 生産性向上テストの様子

今後の経営ビジョン

施策や支援機関の活用で得られたことは「成長」です。この先も成長すること、経営は顧客・取引先・従業員・関係企業・地域、全てを活かして変化に対応ができればいいけません。みんなにとって良いことが実行できて、悪いことはやめられる、それが良い会社の条件ではないかとコロナ禍で悩みつつも考えました。どんな状況でも前向きな経営を心掛けます。

（取材／経営指導員 中村哲彦）